

学位論文審査の要旨

	佐野 香織 【比較社会文化学専攻 平成21年度生 平成29年度再入学】	要 旨
論文題目	省察的実践者をめざす学びと教育 —大学院日本学科における実践	<p>本論文は、東欧の大学院日本学科において、ことばの教育の枠組みを問いなおす中で、互いに省察しあいながら探究を行う大学院生の学びを検討し、社会を展望することばの教育と学びを考察したものである。日本学研究の伝統のある東欧のことばの学びは、知識教授、準備教育としての日本語教育という自明の構造の下に存在してきた。しかし、多様な興味・関心やテーマを持つ大学院生が共に学ぶ中、異なる他者といかに学びあうのか、問い直しと再構築が求められている。</p>
審査委員	(主査) 教授 森山 新	<p>本論文では、筆者の教育実践を軸に、それを行うに至る筆者の省察と、大学院生の学びを記述した。大学院生の活動は各々の興味・関心を基に行った日本語によるブログ型専門分野コミュニケーション活動を取りあげた。</p> <p>その結果、教育者、大学院生の学びの展開における前提を問いなおす重要性、そのためには折りあいながらも協調的な場 (conviviality) を創っていく協働の姿勢が求められること、この協働の場において相互省察をしていくことは重要であると共に困難も伴うことを明らかにした。そして、個人の学びの前提を長期的・包括的に見渡し学び続けることを可能とする機会を作ること、協調的な相互省察につなげながら探究をすすめるために、越境の学びの場、仕組みのデザインが必要であることを提言した。</p>
	教授 佐々木 泰子	
	講師 加納 なおみ	
	教授 浜野 隆	
	玉川大学 教育学部 教授 中村 香	
インターネット 公表	<p>○ 学位論文の全文公表の可否 (可 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 否)</p> <p>○ 「否」の場合の理由 ウ</p> <p style="margin-left: 20px;">ア. 当該論文に立体形状による表現を含む イ. 著作権や個人情報に係る制約がある ウ. 出版刊行されている、もしくは予定されている エ. 学術ジャーナルへ掲載されている、もしくは予定されている オ. 特許の申請がある、もしくは予定されている</p> <p>※本学学位規則に基づく学位論文全文のインターネット公表について</p>	<p>第一次審査は6月15日に行われた。その結果、学生に実際にどのような学びが起きたかを明らかにするには限界があり、学生よりはむしろ教師としての学びを扱う方が良いとの指摘があった。また、論文の体裁などについても指摘があった。申請者はそれらの指摘を踏まえ修正を加えた。8月20日に各審査員に改稿とコメントに対する対応表を提出、1週間の審査を経て、公开发表会及び最終審査会に進んでよいとの判定を全ての審査員から得るに至り、8月31日に公开发表会が実施された。公开发表会では、研究全般について紹介があったのち、質疑応答が行われ、新たな研究の分野やその手法に対し、様々な質問があった。申請者はこれらの質問に対し、誠実に答えていた。その後の最終審査会では、慎重な審議の末、本論文が博士論文としての基準には達したと判定され、博士 (人文科学) (Ph.D. in Applied Linguistics) を与えることを全会一致で決定した。</p>